

岐阜大病院「呼吸器センター」本格始動

岐阜大医学部付属病院（岐阜市）は、県内で初めて、肺がんなど重度の呼吸器系疾患を扱う呼吸器内科と呼吸器外科、放射線科の三科でつくる組織「呼吸器センター」を一月に発足した。複数の診療科にまたがる症状の患者へ速や



呼吸器センターの概要を説明する岩田教授＝岐阜大医学部付属病院で

重度疾患で3科連携

かに適切な専門医を紹介できる仕組みを目指し、四月から本格的に始動する。

県内の呼吸器外科の専門医は人口百万人あたり六・六人で、全国ではワースト三位。他の二科も全国平均より少なく、この分野の拡充が求められている。

岐阜大病院ではこれまで、各科で個別に診療していたため、治療法が合わない患者が複数の科を行ったり来たりする場合があった。センターは、三科の医師ら十六人で構成。複雑な症状の患者については、メンバーで会議を開き、ま

ずどの科で診療すべきか検討する。

遠方の病院から患者を紹介してもらう際には、事前にコンピューター断層撮影（CT）写真などを送ってもらい、来院前に症状を把握する仕組みも準備している。センター長の岩田尚教授（五）は「呼吸器系の疾患は、画像を見ればある程度状態は予測できる」と話す。

レベルの高い医療を確立し、専門医の養成や新薬の治験にも積極的に取り組む。岩田教授は「より最適な治療を最短で受けられる場にし、県の呼吸器診療を支えていきたい」と力を込めている。

（兼村優希）